

学びをひろげる (第18回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2016年12月10日(土) (1時45分~5時)

場所 阿倍野市民学習センター 特別会議室
〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目10-1-300 ☎06-6634-7951

参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。

定員 45名 参加希望される方は、下記の松森までお名前をお知らせください。折り返し連絡いたします。



最寄駅
JR 環状線(天王寺駅)
地下鉄御堂筋線・谷町線(天王寺駅)
近鉄南大阪線(大阪阿倍野橋駅)
徒歩7・8分

一人で拡がらない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合いましょう。



前回 第17回の内容

初任者からの提案 二人の女性教員から話していただきました。

正直な言葉でありのままを話してくださいました。すがすがしい魅力をたたえたお二人の姿と同時に、今の日本の教育現場の紛れもない実態が浮かび上がります。Aさんは、「教師にだけはなりたくなかった」と語り始めました。出身の小学校は文科省の指定研究校で、学力を上げるためにテストばかりをやらされた。自分も点数の対象として見られていたような気がして、学校も勉強も嫌いで、休んだり、抜け出していた。進級した中学校が荒れていたのは、小学校の教育方針のせいではないかと考えている。大学のゼミで大阪の小学校に関わるようになり、「大阪の教育」が自分の経験してきたものと全く違っていることに驚き、教育に対する魅力も感じるようになった。今年度から正採用として勤務。自分が拒否し、否定する教育の「原体験」を持ちながら、これからどんな教育活動をつくりだしていくのか楽しみです。

Bさんは、指導教員がずっと教室にいて監視されているようで、自分の思いが自由に話せないんです、と切り出しました。黒板や手紙の誤字脱字を指摘され、授業のすすめ方も注意されてばかり。教室であったことをすべて校長に報告される。指導教員が教室を離れるときや、休み時間遊ぶときに、子どもたちとつながっている実感が持て、ホッとする。「やめたい」「生きるのもしんどい」「消えたい」と思うこともありますと言葉を漏らしました。毎日夜の9時半ごろまで学校に残り、土曜・日曜も出勤していたといいます。他の教員や保護者は応援してくれ、子どもたちともいい関係が生まれているようです。学生時代に様々なボランティアをして、外国人ともワークを通して付き合ってきたBさんは、そんな経験を授業にして子どもたちと一緒に取り組みたいと考えています。今でもその火は消えていないはずです。

アクティブ・ラーニング、ユニバーサル・デザイン、多様性の教育などと、口当たりの良い言葉をならべながら、平然と職場の仲間を、しかもこれから限りない可能性を秘めた初任者を、頭ごなしに管理してつぶしてしまう、これが日本の学校現場の現実です。私たちにとっても大きな課題が提案されました。



前回研究会の様子

今回 第18回は



牧口一二さんが提案 “牧口一二が体験した学校、授業”

「学校生活でのいちばんの難題は体育の実技、すべて見学でした。むろん通知表は実技「1」評価、でも理論評価でなんとか帳尻合わせして無事に進級。ところが現役のころは気づかなかったのですが、卒業後10年経ったころからは学校の思い出が体育の時間に集中しているのです。ボクはひょっとすると体育の時間に育てられた人間かも。きっと体育実技を見学している中で、悲しかったこと、悔しかったこと、辛かったこと、怖かったこと、困ったこと、切なかったこと、驚いたこと、逃げたくなったこと、嬉しかったこと、楽しかったこと、慰められたこと、友を想ったこと……がいっぱいいっぱいあったからだと思います。」牧口さんはそう語っています。

これは面白いぞ、と思っています。牧口さんの口からほとぼり出る、学校、教師、授業に対する恨み節なのか、それともロマンスなのか、私たちは全身に浴びてもう一度、学校や授業や友達や…を原点に戻って考えたいと思います。

「学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎✉gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎✉matumori@crux.ocn.ne.jp)

山本 (☎✉yamamoto5.cham@gmail.com) 堀 (☎✉hori720@hotmail.com)

★次回第19回研究会は、2017年2月11日(土) 午後1時45分~5時 阿倍野市民学習センター★

終了後、会場近くで忘年会をします。ごぞってご参加ください。お待ちしております。